

辞書の使用が引き起こす学習者の不自然な表現
- 「JLPTUFS 作文コーパス」の作文から見えてくること-

ICJLE 2010 世界日本語教育大会（於台湾国立政治大学）
2010年7月31日（土）-8月1日（日）

東京外国語大学留学生日本語教育センター
鈴木 智美
tmsuzuki@tufs.ac.jp

[キーワード] JLPTUFS 作文コーパス、文章表現、辞書、初中級レベル、直訳の壁

1 はじめに

- 「JLPTUFS 作文コーパス」の概要を説明
東京外国語大学留学生日本語教育センター（以下、「センター」）で作成中の日本語学習者の作文データベース
（東京外国語大学「全学日本語プログラム」受講者対象）
- 日本語学習者の作文に見られる不自然な表現
（日本語として慣習的に定着しているとは言えない表現）を
初中級レベルの作文に注目し、「辞書」使用の側面から質的に分析する。
 - * 日本語学習者が文章を産出する際、辞書使用の留意点は何か
 - * 日本語学習者の文章産出を効果的に支援するために辞書のできることは何か

不自然な漢語表現や句単位の表現→母語等からの“直訳”の発想の壁

2 JLPTUFS 作文コーパス

2.1 コーパス構築の目的と概要

(1) 「JLPTUFS 作文コーパス」

目的：

日本語学習者の作文を電子データ化し、数多く蓄積していくことで、作文における文法項目、語彙、漢字等の用いられ方、および学習している人の母語や学習レベルと作文との間にどのような関係があるか等を分析し、日本語教育に資することを目的とする。そのための基礎資料をコーパスとして提供する。

内容：

東京外国語大学「全学日本語プログラム」（JLPTUFS）の教育課程において書かれた作文のうち、執筆者によるデータ提供の同意が得られた作文をデータ化する。執筆者氏名や、作文中の個人名は削除した上でデータ化を行う。

対象期間：

2009年度（春・秋学期）～2010年度（春学期）の計3学期分。

2.2 コーパスのイメージサンプル

(2) 「情報一覧ファイル」 記載項目

- ①基本情報 : 作文番号、執筆者 ID 番号、受講レベル、クラス
- ②執筆者情報 : 性別、年齢、専門、国籍、国籍以外の 3 年以上の居住地、母語、母語以外の使用言語、日本語能力試験の合格級および合格年
- ③作文情報 : 実施日、出題テーマ、作文タイトル、実施形態 (授業時間内、宿題など)、制限時間、字数指定、文体指定、筆記形態 (手書き、ワープロの別)、その他条件 (辞書使用可、教科書・ノート参照可など)

a. 情報一覧ファイル

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
作文番号	PDFファイル	執筆者ID	レベル	クラス	国籍	母語	専門	作文のテーマ	作文タイトル	実施形態	制限時間	字数指定
2009110010051901	2009110010051901	10005	100	集中	フィリピン	フィリピン語	国際関係	わたしの1日	わたしの一日	宿題	特になし	約400字
2009110010062307	2009110010062307	10016	100	集中	アイルランド	英語	美術	日本に来る前と日本に来てから	日本のせいかつ	宿題	特になし	500-600字
2009120010072106	2009120010072106	10010	200	集中	ブラジル	ポルトガル語	史学	留学と将来の夢	わたしの将来のゆめ	授業時間内	90分	約600字
2009130030052110	2009130030052110	10024	300	文章	中国	中国語	教育学	自国と日本の習慣の違い	中国と日本の習慣の違い	宿題	特になし	約400字
2009140020071305	2009140020071305	10013	400	総合	アメリカ合衆国	英語	文化人類学	自国の教育制度	アメリカペンシルベニア州の教育制度について	宿題	特になし	特になし
2009170020050814	2009170020050814	10135	700	総合	ウズベキスタン	ウズベク語	言語学	「機械との共存」を読んで考えたことについて書きなさい	人間の未来	授業時間内	45分	800字以内
2009180040061601	2009180040061601	10120	800	アカデミックライティング	ロシア	ロシア語	日本語・日本文化	因果関係を述べる	ロシアにおける顕微鏡流出	宿題	特になし	400字

b. 作文テキストファイル

sample

c. 作文 PDF ファイル

(国語: フィリピン)
 (母語: フィリピン語)
 (テーマ: わたしの1日)
 (入力日: 090908)
 (入力者: GD)
 (確認日: 091020)
 (確認者: KK)
 (注: 一部ルビあり)

わたしの一日
 わたしは、毎朝5時半ごろおきます。朝いちばんにすることはおのりです。それから、おちゃをのみます。そして、日本ごをべんきょうします。朝ごはんをたべてから、シャワーをあびます。(朝)5分ごろりょうをします。
 わたしは山川でいっしょにのって、どびたきゅうえきでおりて、大学まであるいて行きます。そしがやから大学まで1時半半くらいかかります。
 わたしのしゅぎょうは8時にはじまります。日本ごセンターの308ごうしつで、日本ごをべんきょうします。そのきょうしつはあたらしいくて、あかるいです。先生のこうきの前に、わたしは本をよみます。よくふくしゅうをします。日本ごのべんきょうはすこしむずかしいですが、とてもおもしろいです。この日本ごべんきょうはたいせつですから、わたしは毎日ならいます。

わたしの一日	
わたしは、毎朝5時半ごろおきます。朝いちばんにすることはおのりです。それから、おちゃをのみます。そして、日本ごをべんきょうします。朝ごはんをたべてから、シャワーをあびます。(朝)5分ごろりょうをします。	屋
わたしは山川でいっしょにのって、どびたきゅうえきでおりて、大学まであるいて行きます。そしがやから大学まで1時半半くらいかかります。	れた
わたしのしゅぎょうは8時にはじまります。日本ごセンターの308ごうしつで、日本ごをべんきょうします。そのきょうしつはあたらしいくて、あかるいです。先生のこうきの前に、わたしは本をよみます。よくふくしゅうをします。日本ごのべんきょうはすこしむずかしいですが、とてもおもしろいです。この日本ごべんきょうはたいせつですから、わたしは毎日ならいます。	した
	ひ
	す
	え

図1 「JLPTUFS 作文コーパス」 イメージサンプル

2.3 2009 年度に収集された作文データ数

○ 「全学日本語プログラム」 (JLPTUFS) : 日本語レベルは 100~800 の 8 段階

- 100 (入門~初級)、200 (初級後半~初中級) :
 100 レベル : 1 学期間 (半年) で初級を一通り終了
 200 レベル : 初級後半~初中級レベルまで
- 300 (初中級)、400 (中級前半)、500 (中級後半) レベル :
 500 (中級後半) レベル終了段階で、日本語能力試験 (2009 年度までの級設定) の 2 級取得がおよその到達目標
- 600 (上級前半)、700 (上級後半) レベル、800 (超級) レベル :
 800 (超級) レベルは、既に日本語能力試験 1 級を取得済みが目安となるレベル

表1 2010年度春学期「全学日本語プログラム」(JLPTUFS) レベル別開講授業の構成

a. 100~200 レベル

レベル	クラス
100 (入門~初級)	集中 (10 コマ)
200 (初級後半~初中級)	集中 (10 コマ)

(注: 作文データ収集の対象クラスは太字)

b. 300~700 レベル

	クラス						
	総合	技能別 (各1コマ)					
300 (初中級)	総合 (5コマ)	文法	読解	聴解	文章表現	口頭表現	
400 (中級前半)	総合 (5コマ)	文法	読解	聴解	文章表現	口頭表現	
500 (中級後半)	総合 (5コマ)	文法	読解	聴解	文章表現	口頭表現	
600 (上級前半)	総合 (3コマ)	文法	読解	聴解	文章表現	口頭表現	時事日本語
700 (上級後半)	総合 (2コマ)	文法	読解	聴解	文章表現	口頭表現	時事日本語

c. 800 レベル

	クラス					
	技能・テーマ別 (各1コマ)					
800 (超級)	読解	ドラマ・ ドキュメンタリー	アカデミック・ ライティング	ビジネス 日本語	時事 日本語	文学 日本語

- ・ 100 (入門~初級)、200 (初級後半~初中級) レベル :
「集中」コース → 90分 (1コマ) の授業×週10回 (毎日2コマずつ)
- ・ 300 (初中級)、400 (中級前半)、500 (中級後半) レベル :
「総合」クラス → 90分 (1コマ) ×週5回 (毎日1コマずつ)
技能別クラス → 「文法・語彙」「読解」「聴解」「文章表現」「口頭表現」
週1回ずつ
- ・ 600 (上級前半)、700 (上級後半)、800 (超級) レベル :
「総合」クラス → 90分 (1コマ) ×週3回
技能別クラス → 上記5技能+「時事日本語」週1回ずつ
- ・ 800 (超級) レベル :
技能別・テーマ別 → 「読解」「時事日本語」「ビジネス日本語」
「ドラマ・ドキュメンタリー」「文学日本語」
「アカデミック・ライティング」週1回ずつ
- ・ 「漢字」クラス (300レベル以上対象 4レベル各1クラス) 週1回
- ・ 「発音」クラス (500レベル以上対象 1クラス) 週1回

表 2 2009 年度の収集作文データ数（レベル別）

レベル	クラス	春学期	秋学期	レベル別計
100 (入門～初級)	集中	22	37	59
200 (初級後半～初中級)	集中	35	40	75
300 (初中級)	総合	28	38	276
	文章	129	81	
400 (中級前半)	総合	25	67	203
	文章	42	69	
500 (中級後半)	総合	43	49	197
	文章	53	52	
600 (上級前半)	総合	0	8	19
	文章	3	8	
700 (上級後半)	総合	15	59	156
	文章	31	51	
800 (超級)	アカデミック・ライティング	72	15	87
小 計		498	574	1,072
計				

表 3 2009 年度の収集作文データ数（国別）

国	データ数	国	データ数	国	データ数
中国	141	中国（香港）	21	ブルガリア	7
イギリス	67	オーストリア	18	エジプト	6
ドイツ	66	フランス	18	グアテマラ	6
イタリア	65	ベトナム	18	チェコ	6
アメリカ合衆国	64	シンガポール	17	マレーシア	6
韓国	48	ポーランド	17	クロアチア	5
スペイン	47	ブラジル	16	スウェーデン	5
台湾	44	チリ	15	メキシコ	5
インドネシア	40	フィリピン	14	ウクライナ	4
タイ	40	カナダ	13	アイルランド	3
トルコ	31	ペルー	13	アゼルバイジャン	3
モンゴル	30	ラオス	11	ハンガリー	3
スイス	28	インド	10	ミャンマー	3
ウズベキスタン	26	スロベニア	8	スロバキア	2
カンボジア	25	オーストラリア	7	ニュージーランド	1
ロシア	22	シリア	7	計	1,072

3 辞書使用を可とする作文に見られる不自然な表現

3.1 初中級レベル

○初級レベル：習った文法項目・語彙等を使用して、身近なトピックについて文章表現の練習をすることが多い。

○初中級レベル：

- ・初級の文法・語彙等を一通り学習し終えた段階
- ・表現したい内容・母語による知的な思考力のレベルと、身に付けている日本語の知識・運用力との間にギャップがあることも多い。
- ・辞書を頼りに難しい表現を試みがち
- ・文章表現の課題を遂行中、学習者が自分の考えや描写したい状況をより詳細にかつ正確に表現しようと、辞書を調べる姿にしばしば接するようになる。

→ 2009年度収集作文データのうち、初中級レベル（「200」「300」レベル）の作文から、「辞書使用可」という状況のもとに書かれた作文（2009年度春学期 192、同秋学期 159、計 351 件）を対象に、そこに見られる不自然な表現を、辞書使用という観点から考える。

3.2 語彙・意味的な問題点

○鈴木（1999, 2002）

- ・中級レベルの学習者の作文を語彙・意味的な観点から分析
- ・「漢字熟語」「類義表現」「コロケーション（連語）」「その他慣用的な言い回し」に関わる不自然な表現あり。

「この悲しい感じは短い間だけした」「レストランでは多すぎる客が食べていた」
「事故でたくさんの自動車がその道をあまり良くなく通った」
「(だめだという返事で) 自分の気持ちが悪くなった」(慣用的な言い回しの関する例)

○「辞書使用」を可とする初中級レベルの作文

- ・文法的な誤りの他に「不適切な語の使用」という語彙・意味的な問題あり。

→「辞書使用」の観点から見ると

- * 学習者の母語・第二言語等からの辞書を介した「直訳」
- * 既存の辞書からは句単位の的確な表現を探し出すことができない

(↓次頁表 4)

3.3 考えるべきと思われる問題

○学習者は、しばしば母語・第二言語（英語等）において頭に浮かんだ語を辞書で引き、その日本語訳を調べ、文を作成する。

→ 複数の訳語のうちどれを選択すればよいか？

適切でない類義表現の選択や不自然な漢語表現の使用につながってしまう

- *辞書に挙げられている例文が十分ではない
- *辞書が日本語学習者の目的や日本語のレベルに合っていない

- *辞書をうまく使うスキルが身につけていない。
- *辞書をうまく使うには、ある程度の日本語力が必要では？

○ 句単位・構文単位での的確な表現へと、学習者を導くこと

1語1語については日本語訳を見つけられても、コロケーション・構文までを含め、語を超えたレベルでそれを的確に使用することにつまずいてしまう。

表4 辞書使用の観点から見た学習者の語彙・意味的な不自然な表現

学習者の表現 (不自然な箇所を下線) ([]内は本稿執筆者の補足)	想定される自然な表現	辞書使用が影響していると思われる点
せかいのかんきょうの <u>会話</u> がありました	～についての 会議/会談/協議	“talk”の訳か
百年前の <u>場面</u> はとても悪かった	状況	“situation”の訳か
[現代社会の交通について] 今日(こんにち)の <u>運動</u> はとても便利だ	移動	“movement”の訳か
人生の中で彼にはいろいろな <u>なししょう</u> がありました	問題がありました/ 困難にぶつかりました	“difficulty” あるいは “trouble”等の訳か
チーズの <u>混合</u> をなべて入れて	～を混ぜたもの	“mix”の訳か
コンビニで寮の <u>つけ</u> が払えます	(寮の) お金/電気代など	“bill”の訳か
いろいろな <u>えらい</u> 建物を建てました	立派な	“great”の訳か
日本の都市は <u>ちゆうみつ</u> です	込んでいる/ 人口密度が高い	“density”から 探した表現か
かれらの生活は <u>あんたいだ</u>	かれらは平和に暮らしている	“safe”あるいは “peaceful”の訳か
夜に町は <u>活発</u> になります	にぎやかに	“lively”の訳か
コピー機がよく <u>せんりょう</u> かにある	誰かに使われている	“occupied”の訳か
交通の <u>頻発</u> が高いので	(電車や地下鉄の) 本数が多いので	“frequency”の訳 からか
[DVDは] わからなかったら <u>後退</u> することができる	戻って見ることができる	“backward”から 探した表現か
学校へ行くのを <u>停止</u> する	行くのをやめる	“stop”の訳か
科学と芸術は <u>開発</u> した	発展した	“develop”の訳か
[地震で] 多くの人は <u>失踪</u> した	行方不明になった	“missing”の訳か
たまごを <u>こわ</u> してまぜる	たまごを割って	“break”の訳か
日本に来た時にホテルに <u>とどまり</u> ました	泊まりました	“stay”の訳か
[切符を買う時] <u>線に立</u> たなければなりません	(一列に) 並ばなければ なりません	“stand in a line” の逐語訳か
水の上できれいな <u>はんえい</u> があった※	水の上にきれいに 映っていた	“reflection”の訳か
きれいな見通しを <u>きょうじゅ</u> した※	とても見晴らしが よかった	“enjoy”の訳か

4 今後の課題

4.1 辞書使用の実態調査

○学習者の「辞書」使用の実態について明らかにすること

- ・2009年度「全学日本語プログラム」受講者による授業評価アンケート：
学習リソースとして「辞書をよく使う」→75%（春学期）、79%（秋学期）
（「全学日本語プログラム学生アンケート」集計結果（2009年度春学期・秋学期））

*学習者が使用する「辞書」とは？

*学習者はそれをいつ、どのように使っているか？

4.2 学習者辞書の可能性

○学習者辞書の改善すべき点の検討

“言いたい”日本語の表現を的確に見つけるために「辞書」のできることは何か？

付記

「JLPTUFS 作文コーパス」作成プロジェクトは、本発表者ならびに本センターの中村彰准教授が協同で作成を進めているものである。2008年度に同プロジェクトメンバーであった本センターの伊集院郁子講師にも、随時力を貸していただいている。

なお、本発表の内容は、日本学術振興会科学研究費補助金（平成22年度挑戦的萌芽研究「留学生の文章産出時における辞書使用の実態調査—言いたい日本語はどう見つけるか」研究代表者：鈴木智美、課題番号：22652047）による研究へと発展的につながっている。

参考文献

- 鈴木智美（1999）「意味的な誤用に見られる主な傾向—慣習的に定着した表現および類似の表現に関わる誤り—」平成8年度～平成10年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書（研究課題番号 08558020）研究代表者：大曾美恵子（名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授）『日本語学習者の作文コーパス：電子化による共有資源化』pp. 131-145（研究協力者）
- 鈴木智美（2002）「2000年度中級作文に見られる語彙・意味に関わる誤用—初中級レベルにおける語彙・意味教育の充実を目指して—」東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生日本語教育センター論集』第28号 pp. 27-42
- 鈴木智美・中村 彰・韓 金柱（2010）「JLPTUFS作文コーパスの構築について—全学日本語プログラムで学ぶ日本語学習者の作文データベース化」『東京外国語大学センター論集』第36号 pp. 123-133
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター（2010）『全学日本語プログラム履修案内』（2010年度春学期）
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター「全学日本語プログラム」運営委員会（2009）「全学日本語プログラム学生アンケート」集計結果（2009年度春学期・秋学期）
- 姫野昌子（監修）（2004）『日本語表現活用辞典』研究社